

中小アジア進出 地銀15行と支援

南富士、全国規模に拡大

アジアで人材育成を手掛ける南富士(三島市)は、中小企業のアジア進出支援を全国規模に広げる。首都圏や近畿圏を含む全国の地方銀行15行と提携し、地銀顧客の海外展開における人材や経営問題を個別対応する。同社の人材育成事業で培ったアジアでのネットワークを活用するとともに、人材紹介事業の拡大にもつなげていく考えだ。

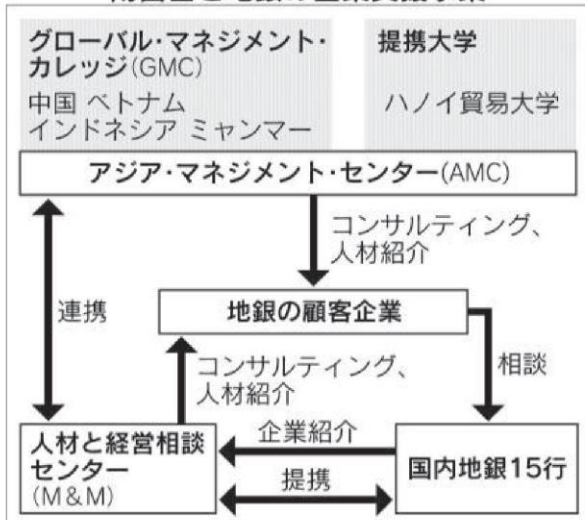


南富士によるアジア進出企業に対するコンサルティング

新たに設置したのは「人材と経営(M&M)相談センター」。8月に試験運用を開始、すでに銀行を通じ11件(中国5、東南アジア6)の相談が寄せられた。15地銀には

人材や経営、個別指導

南富士と地銀の企業支援事業



地域とアジア

地元の静岡銀行のほか、横浜銀行や池田泉州銀行などの大手行が入っている。南富士は2005年、アジアにおける企業幹部候補生を育成・紹介する私塾「グローバル・マネジメント・カレッジ(G

12月から本格的に稼働(MC)を開設。現在は中国、ベトナム、インドネシア、ミャンマーで展開し、350人を超える卒業生を輩出している。提携は近く20行にまで増える見通し(杉山定久会長)という。

15年には現地の大学など提携した人材育成機関「アジア・マネジメント・センター(AMC)」を設立した。同機関とM&M相談センターが連携して進出企業に具体的な経営指導をする。

地銀は低金利下で融資の利ざやが縮小するなか、非金利収益の強化が求められている。成長余地のあるアジア市場に活路を探る地方企業は少なくない。地銀だけではサポートが不十分ことから、人材育成と現地でのネットワークで実績のある南富士との提携で、顧客企業の支援強化を狙う。

一方、南富士は昨年、アジア進出を目指す企業を支援する有料の会員組織を立ち上げたが、会員数が伸び悩んでいた。今回、地銀のネットワークを活用した全国規模での展開と成功報酬型のビジネスモデルを導入することにより、人材紹介事業の拡大を目指す。

相談は無料で、実際に活動した場合に実費を請求する。「案件によっては事業や企業への出資なども検討する」(杉山会長)。さらに人材が必要になればGMCの卒業生を紹介するなど、人材ビジネスにもつなげる考えだ。

今回の提携は顧客に対するコンサルティング業の拡大を目指す。